

症例を読むことは臨床への第一歩。

## 症例を学ぶことで、臨床における 弁証能力を養うことができる。

症例学習は、他人の診療経験を学ぶことであり、間接的な臨床実践である。  
中医学の理論と臨床を結ぶ架け橋となる。



### 本書の特色

- ◆ 理論と臨床を結びつけた、入門者のための症例集。
- ◆ 針灸が適応する63種類の病症を網羅。
- ◆ 症例を学ぶことで、臨床における弁証能力を培うことができる。
- ◆ 「考察」の項で、中医弁証の思考過程をていねいに説明。
- ◆ 症状の変化に応じた針の操作方法についてもきまこまかく解説。

私たちが目にする症例のなかには、脈象・舌象その他の検査結果が、どのような思考経路をたどってその診断(弁証)にいたったのかが必ずしも明確でないことがしばしばある。私が本書の一番の特徴だと思うのは、その思考経路が明確で、読み手の思考が中断されないという点である。それは、各症例に付けられてある「考察」の内容がまさしく必要かつ十分で、非常にていねいであるからだ。どうしてそのような治療を行ったのかの説明はもとより、一般的な解説、またときには、古典から引用して病因病機を述べた後に、その症例の具体的な状況を一般論から演繹して説明している。

いま必要な症例を、このなかから見つけて参考にするという使い方はもちろん、本書は「考察」の部分の充実ゆえに、通読するに値する。  
「訳者あとがき」(名越礼子)より

中医学を学ぶための雑誌『中医臨床』(季刊)ますます面白く、実用的な内容になっています。



東洋学術出版社

ご注文は、メールまたはフリーダイヤルFAXで

FAX.0120-727-060

A5判／並製／320頁／定価3,990円(税込)

# 「症例から学ぶ」 中医針灸 治療

邵湘寧 主編  
名越礼子 訳



# 【症例から学ぶ】 中医針灸治療

## ◆本書に収録する 63 病症

### 1 科

1. 感冒
2. 中暑〔日射病〕
3. 肺咳〔肺経の損傷からくる咳〕
4. 哮喘〔発作性の喘鳴を伴う病症〕
5. 呃逆〔しゃっくり〕
6. 胃脘痛〔上腹部痛〕
7. 嘔吐
8. 腹痛
9. 泄瀉〔非細菌性・非伝染性の下痢〕
10. 痢疾〔赤痢〕
11. 便秘
12. 脱肛
13. 脇痛
14. 胸痹〔胸背部痛〕
15. 心動悸〔心悸亢進の激しい病症〕
16. 不寐〔不眠〕
17. 癲狂〔統合失調症などの精神障害〕
18. 癩病〔てんかん〕
19. 癱閉〔排尿障害〕
20. 遺精
21. 頭痛
22. 眩暈〔めまい〕
23. 中風
24. 面風痛〔顔面痛〕
25. 痹病〔邪気が内臓の経絡を塞ぐために起こる病症〕
26. 痿病〔四肢が萎縮し、筋肉が麻痺するなどの病症〕
27. 腰痛

### 2 婦人科

1. 痛経〔月経困難症・月経痛〕
2. 閉経〔無月経〕
3. 崩漏〔機能性子宮出血〕
4. 帯下
5. 胎位不正〔胎位異常〕
6. 産後の腹痛〔後陣痛〕
7. 欠乳〔産後の乳汁不足〕
8. 陰挺〔子宮脱〕
9. 不孕〔不妊症〕

### 3 小児科

1. 百日咳
2. 疳病〔小児の慢性栄養不良〕
3. 小児驚風〔小児のひきつけ〕
4. 乳幼児の腹瀉〔下痢〕
5. 疳脹〔流行性耳下腺炎〕

### 4 外科

1. 乳癰〔急性乳腺炎〕
2. 乳癖〔乳腺腫瘍〕
3. 瘰癧〔甲状腺腫〕
4. 痔瘡
5. 腸癰〔急性虫垂炎・虫垂周囲膿瘍などの疾患〕
6. 扭傷〔捻挫〕
7. 風疹
8. 油風脱髮〔脱毛症〕
9. 牛皮癬〔乾癬〕

### 5 五官科

1. 天行赤眼〔急性伝染性結膜炎〕
2. 針眼〔麦粒腫〕
3. 近視
4. 暴盲〔突発的な視力の低下あるいは失明〕
5. 聾啞
6. 膿耳〔化膿性中耳炎〕
7. 鼻淵〔副鼻腔炎〕
8. 乳蛾〔扁桃炎〕
9. 喉暗〔喉頭部疾患による失声〕

### 6 急症

1. 高熱
2. 瘧病〔牙関緊急・弓なり緊張などを伴う熱性病〕  
厥病〔突然失神する病症〕
3. 脱骨〔陰陽気血が大量に損耗した病〕

1. 内科

### 16 不寐〔不眠〕

#### 症例 1

患者：劉〇〇、女性、50歳。  
初診：1996年5月9日  
主訴：不眠が1カ月続く、ここ11日ひどくなった。  
経過：患者の訴えによると、4月8日に眠れなくなり、眠ってもすぐ目が醒める。睡眠不足のため、昼間は疲れきって、頭痛やめまいがする。4月26日には、寝入ったばかりなのに、気が下から上に、頭部にまで突き上げるような感じがあり、すぐにうつらうつらして、一晩中眠れず、とても不快だった。今は、精神的に疲れて、めまいがあり、頭が圧迫されるようで、ときには胸部苦悶があり、心悸亢進して息切れがする。自らオリザノール・ビタミン剤・朱砂安神丸などの中西薬を服用したが、好転しないので、針灸治療を求めて来院した。

検査：慢性病の様子。不快感がある・顔は青黒い・舌質は淡・舌苔は厚膩・中心の色は黒くて水分が多い・脈は弦緩で力が弱い・心電図は正常。

診断：中医：不寐（衝・陽逆上衝）  
西医：心身症

治法：衝脈・陽逆・陰陽脈を調整する、降逆安神\*

取穴：申脈・照海・公孫・太衝

操作：照海・申脈はそれぞれ内・外踝の先端から1寸下に取穴し、針尖を踵骨下縁に沿わせて1.2寸ほど刺入する。得氣を得たら、同時に照海を補し、申脈を瀉す。公孫・太衝はいずれも瀉法で、強刺激。30分置針し、5分ごとに1回手技を加えた。  
上記の治療を1回行くと、その晩はどうか眠れて、気逆上衝も好転した。翌日同じツボに再度刺針をしたところ、その晩は5時

症例 1	
主訴	不眠が1カ月続き、この11日ひどい
経過	1カ月前に眠れなくなった。気が突き頭が圧迫されるよう・胸部苦悶・心悸
診察	不快感・顔色は青黒い・心電図は正常 舌診：舌質淡・舌苔厚膩（中心は黒く） 脈診：弦緩・力が弱い
診断	中医病名：不寐 西医病名：心身症
弁証	衝脈、陰陽・陽逆脈の不調和、気逆上衝
治法	衝脈、陰陽・陽逆脈の調整、降逆安神
取穴	申脈・照海・公孫・太衝

間ほど眠れたが、ときおり気逆上衝があり、3日目に、同様の治療をすると、睡眠は正常に回復し諸症状もなくなった。治療効果をしっかりとさせるために、さらに継続して3回治療を行った。5カ月後に会う機会があったが、症状はすべてなくなり再発はしていないということだった。

#### 【考察】

不眠は臟腑機能が乱れることにより、陰陽が失調して、正常な睡眠が損なわれる病症である。軽いものは、なかなか眠りに入らず、眠っても目覚めやすく、醒めた後は眠れない。重いものは、一晩中眠れず、そのため他のさまざまな症状が発生する。中医では、心・腎・肝・脾・胃に病気があるときに、不眠が引き起こされると考えている。また、衝脈の運行が阻害され、陰・陽二陽脈の機能が失調しても、不眠になる。臨床では、一般的には安眠・内関・神門・郄門・通里・三陰交・心俞などの腧穴が使われる。

75